

テーマ

次代へつなぎ “輝くふるさと” へ～地域を知り・守り・つなぐ～

事業実施地区（中学校区名）	大田市立西中学校
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	仁摩公民館、温泉津公民館

テーマの背景

西中学校区では、今までも地域の大人や子どもを対象にふるさと教育を実践してきた。その中で、地域に対する愛着心を育むことをねらいとした事業を大切にしてきた。今回、その愛着心が、ふるさとを大切にしようとする態度や、主体的に地域の課題に向かおうとする態度を育むことにつながることで持続可能な地域づくりに結びつくものと考え、「『知る』から『守り・つなぐ』」をテーマに事業を展開した。

実際の取組

③子どもたちに伝えたいテーマ・題材の事業実施

事業名：親子でふるさと再発見！

<取組の概要>

仁摩小学校親子を対象に、地域の歴史・文化について地元の歴史同好会から学ぶ“ふるさと学習会”を開催した。

事前学習会では、歴史同好会が、仁万の昔の姿をデジタルデータ化した資料や、街の今昔を大型の模型にした地図を使って、子どもたちにわかりやすく説明し、伝えた。

フィールドワークでは、歴史同好会の説明を受けながら、実際に親子で仁万の街を歩き、自分たちの住む町の魅力や現状、課題を肌で感じながら再発見し、ふるさとへの思いを醸成した。

<成果と課題>

- ・親子で自分たちの住む地域について学ぶ機会となり、ふるさとを誇り、ふるさとを愛し地域の課題を発見するなど、次世代がふるさとを考えるきっかけとなった。
- ・歴史講座（大人編）で学んだ“学び”を地域に還元し、若者・子どもたちに伝えることで、高齢者・団塊の世代の生きがいがいづくりにつながった。

#### ④ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場を設定

事業名：どきどきどようび

##### <取組の概要>

子どもたちの安心・安全な居場所・遊び場づくり、リーダー育成を含め、地域の皆さんの経験や知識・知恵をお借りし、第3土曜日を基本に、体験学習機会を通して地域を大切にする心を培う事業として実施した。

- よこつ池にお魚を釣りに行こう
- どきどき親子電波教室ラジオを作ろう
- 夏のマリンスポーツ体験 SUP（スタンドアップパドルボード）をやってみよう
- 石見神楽面を勉強しよう
- 温泉津港で魚釣りをしよう
- インドアスポーツで楽しもう（スポーツ吹き矢とスポーツスタッキングに挑戦） など

##### <成果と課題>

参加した子どもたちは、体験を通して楽しみながら学び、多くのものを得て成長していくことと考えている。

今後の課題としては、参加者の固定化が進んでおり、子どもたちが興味を持って参加しているような魅力のある事業の企画が必要であると感じている。また、学校・保護者・スポーツ少年団等にもより積極的に広報をしながら、活動についての理解を広めていきたい。

#### まとめ

##### テーマに迫るためのポイント

- ・地域の豊富な教育資源である、ひと、もの、こと、を活用する。（地域の豊かな自然、文化、歴史、魅力に触れ、次代に伝える。）
- ・子どもたちは“地域の宝”。地域をあげて学校を応援し子どもたちを育てる地域の教育力。
- ・体験を通して得られる資質・能力をどの時期にどのような体験を通して育むかを考える。
- ・高齢者、団塊の世代の豊富な知識・経験・知恵を活かし、子どもたちに伝えることで“生きがいつくりの場”につなげる。
- ・歴史講座（大人編）での学びを地域に還元する。
- ・異世代交流により循環型“絆”社会の構築につなげる。

子どもの頃は、楽しみながら学ぶという視点が大切であり、結果的にふるさとへ愛着と誇りをもつということになればよいと思う。

##### 今後の展望

- ・活動を継続することで、地域を愛し、地域を誇り、地域に帰り、地域を支え、地域を創る担い手の育成につなげていきたい。
- ・校区で現在整備中の“道の駅”（2021年完成予定）など新しい時代に向かうまちづくりに向け、より一層ふるさとの魅力を広くPR発信し、ふるさと教育を推進していきたい。
- ・これからも、地域にあるいろいろな宝と子どもたちを繋いでいくような、ふるさとのひと・もの・ことを活かして、自分の住む地域に対して愛着と誇りを持てる子どもに育てていきたい。

～公民館を核とした持続可能な地域づくり推進事業～  
公民館ふるさと教育推進事業 取組事例